

## 名張市水道事業経営戦略の中間見直しについて

### 1. 計画策定の趣旨及び背景

本市の水道事業においては、管路施設をはじめとする多くの施設が更新時期を迎えてきており、それらの老朽化した施設の更新に多大な整備費用が必要となっている一方で、給水人口の減少や節水機器の普及などにより給水収益が減少傾向にあるなど、事業経営を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

そこで、本市の水道事業を将来にわたって安定的に継続していくため、中長期的な視点に立った経営の基本計画となる名張市水道事業経営戦略（以下「計画」という。）を令和3年度に策定し、投資の効率化や事業経営に必要な財源の確保などに取り組んできました。

令和7年度に計画の策定から5年目を迎えたため、PDCAサイクルに基づく取組状況の確認、評価等を踏まえて中間見直しを行いました。

### 2. 計画の位置付け

本市の総合計画である「なばり新時代戦略」や「第2次名張市水道ビジョン」といった上位計画との整合を図りつつ、計画期間における経営の基本的な考え方、投資試算や財源試算、収支ギャップの解消など経営健全化に向けた取組を定めています。

### 3. 計画期間

令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間としています。

### 4. 計画の内容

#### (1) 現状の問題と課題

本市が抱える大きな課題として、老朽化した電気・機械等の設備や水道管路の更新需要が増加してくることが挙げられます。水道水の安定供給のためには、積極的な老朽化対策への取組が必要となっていますが、これらの事業を推進するためには莫大な投資と人的資源が必要となります。

財政収支では、水需要の減少による給水収益の減少、昨今の物価上昇等に伴う施設維持管理経費の高騰及び更新事業費の増加に伴う減価償却費や企業債償還利子の増大等により、単年度の赤字が継続し、補填財源の不足が生じる見通しとなっています。

加えて、水道水を作るために必要な経費（給水原価）が、水道水を使用することで

得られる収入（供給単価）を上回っており、原価割れとなっている状況が継続していることから、健全な経営に向けた取組が必要となっています。

## （2）計画の見直し

計画では、PDCAサイクルによるマネジメントの実施により、計画期間の5年目に当たる令和7年度に、前半期間の取組の進捗評価、また、目標の達成状況の確認等を行い、後半期間の目標や取組内容等についての見直しを行いました。

当初の計画においては、計画期間のうち、前半期間を収益的収支の赤字の改善と増加する投資への財源の確保を目指す「経営基盤強化期間」、後半期間を前期の事業進捗を踏まえた投資の見直しとともに経営基盤強化の効果持続を目指す「経営の合理化期間」としていましたが、料金改定の先送り等により当初の計画との乖離が生じており、後半期間においても経営基盤の強化が必要であることから、引き続き「経営基盤強化期間」と位置付けました。

安全で信頼される水道水の安定供給を継続するためには、設備や管路などの更新が不可欠であり、施設等の適正規模へのダウンサイジングや長寿命化された製品の採用及び維持管理の強化などによる延命化等の取組により、投資額の平準化や縮減を図り、効率的・効果的な投資に努めます。

また、財政面では、投資額の増加や水需要の減少に伴う給水収益の減少が見込まれる中で、独立採算の原則に基づき、企業債の発行、国県補助金の獲得及び水道料金の適正化等により、持続可能な事業経営に向けた財政基盤の強化に努めます。

なお、経営に関する重要な事項については、「名張市上下水道事業運営審議会」に諮りながら検討することとしており、昨年度に同審議会に対して「水道事業の持続可能な経営のあり方」について諮問し、現在、審議されております。